

創

—第70回—

生活と政策をアップデートする

皆様、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いたします。

この年末年始は久しぶりに別府の街にも活気が戻りましたね。医療従事者の皆様のご努力や市民挙げての感染予防のおかげです。心から感謝いたします。

しかし同時にオミクロン株による新規陽性者の報告が大分県内、別府市においても連日報告されるようになりまし。一般的にオミクロン株はデルタ株に比較して倍以上の感染力があると言われてきましたので、今後も感染拡大が予想されます。第6波が来るとすれば1月か2月と感染症の専門家の先生も言われていますのでその状況に近づいているのかもしれない。しかし私達がすべき事は変



別府市長
長野 恭紘

わりません。マスク着用、密の回避、手指消毒、それによく睡眠と栄養を摂り、免疫力を高める事です。オミクロン株は重症化率等が従来株に比べて低いと言われていますが油断はできません。

そしてウイズコロナも3年目になり、私達も多くの事を学びました。ニュースを鵜呑みのにする事なく何が正しい情報かをしっかり判断し冷静に行動する必要があります。行政が皆様にお届けする事も大切な役割だと思えます。自宅に引きこもるのみの対策では心と身体の健康が維持できません。十分な感染予防をしながら、可能な限り地域活動や経済活動が続ける工夫が大切です。

(1月7日執筆)

フォトべっぷ



新年の門出を祝って—1月4日、ビーコンプラザで2年ぶりとなる「令和4年別府市新年祝賀互礼会」を開催しました。約350人の皆様にご参加いただき、別府ざぼんサイダーで乾杯して新しい年の門出を祝いました。



感謝と祈りを—6回目を迎えた個展形式の芸術祭「in BEPPU」が12月18日から開幕。主会場の鉄輪温泉街では、服飾デザイナーの廣川玉枝さんが「祭」をテーマに、自然の恵みへの感謝と豊かな未来を願う新しい祭を創造しました。



7箇所から同時打ち上げ—11月20日から毎週土曜日に打ち上がったエール花火。最終日の12月25日は市内の山や海など7箇所から同時に打ち上がって夜空を広範囲にわたり美しく彩り、見た人の心に感動を与えてくれました。



願いを込めて—1月4日から4日間、新型コロナ収束の願いが込められた竹アマビエと、市内の福祉施設の協力などにより完成した千羽鶴を市役所1階に展示しました。行き交う人は立ち止まって同じ願いを馳せていました。